

令和6年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	71	学校名	茨城県立真壁高等学校					課程	全日制			学校長名		石塚 幸光				
教頭名	加藤 浩二										事務（室）長名			小澤 弘				
教職員数	教諭	21	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	7	実習教諭、実習講師、実習助手			7	事務職員	4	技術職員等	9	計	55
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	農業・環境緑地 科		17	2	23	5	21	9	-	-	61	16	3					
	食 品 化 学 科		5	10	7	8	12	16	-	-	24	34	3					
	普 通 科		4	2	3	5	1	3	-	-	8	10	3					

2 目指す学校像

文武両道の校風の下、全ての教育活動をととして、教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献する人間をはぐくむ。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献できる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の実態に応じた特色ある教育課程を編成するとともに、3年間を見通したキャリア教育を推進し、地域等と連携した取組の充実を図り、生徒の進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○専門学習に取り組むため、中学までの基礎学力がある生徒 ○実習や地域連携活動が多いため、主体的に活動等に取り組める生徒 ○将来、地域社会に貢献するため、農業・石材・食品の知識・技能を極めようとする意欲のある生徒 ○地域を理解し、地域の人と協働して学ぶことが出来る生徒 ○進路実現のため、資格取得や検定への取り組みに意欲がある生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
生徒指導	基本的生活習慣や規範意識について課題のある生徒が一部にみられた。このため、学校生活に意義を見出せず、問題行動や進路変更につながる傾向がある。	社会生活で重要な、好ましい人間関係づくりや基本的生活習慣、規範意識、自己肯定感をどのように育成するか。また、社会の一員として、どのように社会と関わり合いを持ち、自分の存在意義を自覚できるか。
学習指導	基礎学力が乏しい生徒が多いため、学習習慣や授業に取り組む意欲、態度が身に付いていない生徒が多い。また、幅広い学力差の中での授業や配慮を要する生徒への支援など、多種多様な指導方法や個に応じた支援が必要である。	IT 授業、習熟度別学習、ICT 端末等の活用により、分かりやすい授業を展開することで、学習に対する意欲や態度を向上させ、基礎学力の定着を図るとともに、学習習慣をどう身に付けさせるか。また、そのために、ユニバーサルデザイン (UD) の視点による授業改善をどのように進めるか。
進路指導	自らの将来の人生設計や進路に対する意識や行動力に課題がある。そのため、進路希望の実現が未達成の生徒が一部に見られる。	3年間を見通した進路指導の充実を図り、進路を主体的に選択する能力や態度をどう育成するか。
特別活動	学校行事には積極的に参加しているが、学校の小規模化により、部活動や生徒会活動、農業クラブ活動、ホームルーム活動が低調傾向にある。このため、リーダーシップを育成する場面が減少傾向にある。 キャリアパスポートを活用しながら、進路行事等の振り返りを行っている。	部活動の加入率や参加率を向上させるとともに、生徒会や農業クラブの活動を通して自ら考え主体的に行動する能力をどう育成するか。 キャリアパスポートの活用を充実させる。
働き方改革	「ストレスチェック」の結果では、仕事の量的負担はR5 はほぼ全国平均値の値になっている。一方で同僚の支援は全国平均値よりやや低い値である。週1回の定時退勤日と週1回の完全消灯日の設定、風通しの良い職場環境作り、業務の精選と平準化に取り組んでいる。 令和5年度の時間外在校等時間については、月平均時間が20時間4分、月平均45時間超過者割合6.4%、月平均80時間超過者割合0.3%であった。	各校務分掌主任や運動部顧問等の一部職員の仕事の量的負担が高いと考えられるので、管理職による1on1ミーティングの実施により業務の再配分や見直し、ICTの活用で業務の平準化をどう図るか。そして複数顧問による部活動の運営や「高ストレス者」への支援をどう推進するか。 時間外在校等時間など、県平均は下回っているものの、一部の教員に大きくなっている負担をどう平準化していくか。

5 中期的目標

1 生徒に寄り添い、向き合う指導を基本として、基本的生活習慣はもとより、集団生活でのルールやマナーについて自覚を高め、規律ある学校生活の確立を図り、問題行動・いじめの未然防止に努める。 2 生徒の実態に応じた特色ある教育課程を編成し、授業への参加意欲の向上と学ぶ態度を身に付けさせるために指導と評価の一体化による授業の改善に努め、基礎学力の定着と学習習慣を身に付けさせる。 3 キャリアパスポートを活用しながら、3年間を見通した系統的なキャリア教育を進めるとともに、地域等と連携した取組の充実を図ることで、地域社会に貢献できる有為な人材を育成する。 4 学校生活、学校行事、生徒会活動及び部活動等の一層の充実を図り、生徒が主体的に取り組む、活気あふれる中でも規律ある学校生活を創造する。 5 地域に根ざした学校づくりを推進するために、PTA、同窓会及び地域と連携して学校支援体制を整え、ホームページを活用して本校の教育活動を積極的にPRする。 6 業務の精選や平準化を積極的に図り、生徒に寄り添い、向き合う時間を増やすとともに、教職員のウェルビーイングの向上とスキルアップの場を確保する。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
・あいさつの励行 ・基本的生活習慣と授業規律の確立 ・安全な学校づくりの推進	① 登下校時、授業・実習、部活動等を通して、場に合ったあいさつの励行を促す。 ② 生徒のよい面を認めて伸ばす指導を基本にする一方、毅然とした粘り強い指導を徹底し、基本的生活習慣と授業規律を確立する。 ③ 生徒観察・面談等を通して生徒理解に努めるとともに、家庭や関係機関等と連携していじめなどのない安全な学校づくりを推進する。
・生徒の実態に合った指導 ・基礎学力の確実な定着 ・自学自習の態度の育成 ・生徒の現状に合わせた授業改善	④ UDの視点による分かりやすい授業として、TT授業、習熟度別学習、ICT端末等の活用による指導を拡充するとともに、指導と評価の一体化により「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善を実施し、生徒の実態に合った指導を展開する。 ⑤ 各教科との連携を密にしつつ、教科横断的な学習内容や指導方法を展開し、多面的・多角的に生徒一人一人の学習状況を把握して基礎学力の確実な定着を図る。また、各教科でドリルを実施し、基礎学力の定着を補完する。 ⑥ 学習習慣を身に付けさせるとともに、認知トレーニングの実施で、社会面や学習面の支援を行うことで、さらなる学ぶ意欲の向上を図り、併せて、補講や個人指導を実施して自学自習の態度を育成する。 ⑦ 観点別評価「C」の生徒に対し、評価の向上を図るとともに、個に応じた授業展開を含めた、生徒に即した授業改善を行う。 ⑧ 生徒の授業評価アンケートについて、個人では1回目→2回目での上昇を、学校全体としては授業満足度全員3.3以上、全体の評価平均3.2以上とアンケート回収率100%を目指す。
・計画的・系統的な進路意識の啓発 ・地域を担う人材の育成 ・自分で考え表現する力の養成	⑨ 進路だより、学年集会や進路ガイダンス等を活用して、計画的・系統的に進路意識の啓発を図る。 ⑩ ラーケーションを活用しインターンシップや地域貢献活動などの体験的活動の積極的な実施、地域人材の積極的活用、資格取得の奨励等を通して勤労観や職業観の醸成を育み、地域を担う人材育成を進める。 ⑪ 社会においては、場を弁えたコミュニケーション能力や態度が重要であることを踏まえ、進路活動を通して、自己を深く認識し、自分で考え表現する力を培う。
・キャリアパスポートを活用し、主体的に取り組む態度の育成 ・特別活動への積極的な参加の奨励 ・キャリアパスポートを活用し、豊かな心を育む教育活動の充実	⑫ 学校行事や生徒会活動に生徒が主体的に参加・運営し、成就感や自己有用感・達成感を高められるよう支援する。 ⑬ 部活動への加入を奨励し帰属意識を高めるとともに、農業関連高校として各種コンテストや発表会等への積極的な参加を奨励する。 ⑭ 校内美化の徹底及びボランティア活動や社会教育活動等の推進により、生徒の自主性と豊かな心を育む。
・保護者や地域と連携した教育活動 ・積極的な教育活動の情報発信 ・創意工夫を生かした事業の推進	⑮ 学校行事、学校説明会、授業公開、農業を活用した取組等を通して、開かれた学校として本校の教育活動を理解していただき、協働して本校の一層の活性化を図り、保護者や地域と連携した教育活動を展開する。 ⑯ 生徒の活動や活躍を本校ホームページにタイムリーに掲載し、積極的な教育活動の情報を発信する。 ⑰ チャレンジプロジェクト事業の地域魅力化型である『「真壁サンシャイン」プロジェクト Next Stage』を精力的に展開し、本校の特色と地域の特性を踏まえた創意工夫を生かした事業を推進する。
・働き方改革の推進	⑱ 校務分掌において、業務の精選と平準化を進めるとともに、チーム体制の強化により全職員が連携し、業務の見直し・再配分、軽減を図る。 ⑲ 部活動においては、顧問以外の教員が、引率をできるよう配置し、一部の教員に引率の負担が偏らないようにする。また、部活動指導員等の配置を行うとともに、練習方法を工夫するなどして、効率的な運営に努める。

